

農 大

令和6（2024）年度版

令和6年7月31日発行
愛知県立農業大学校

だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2
Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831
E-mail noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



切花専攻



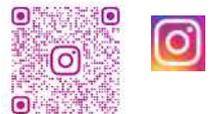
CONTENTS

- 1 専攻紹介 切花
- 2 新入生 入学して思うこと(前編)
- 3 クラブ紹介(卓球部、軽音楽部)
- 4 研修紹介 新規就農希望者向け3研修
- 5 専攻トピックス
- 6 トピックス
終業式
農学科後援会専攻見学・懇話会を開催
第1回進路セミナーを開催
生産高度化研修(イチゴ・ブドウ)を開催
- 7 お知らせ
オープンキャンパス(8月)、令和7年度入学者選抜試験

愛知県立農業大学校
公式HP



Instagram



X (旧 Twitter)



専攻紹介

切花専攻

全国一の花の生産額を誇る”花の王国”愛知県。切花専攻には、王国の未来を担う学生13人（2年生5人、1年生8人）が在籍しています。今年も“少数精鋭”を合言葉に、明るく楽しく実習に取り組んでいます。

学生は3つの部門（キク班、バラ班、洋花班）に分かれ、キク、バラ、ヒマワリ、ストック、カーネーション、ケイトウ、ガーベラなど多様な品目・品種の花を栽培しています。5棟の温室(延べ面積1,500m²)と露地圃場(500m²)で、年間およそ6万本の切花を栽培します。毎年、新しい品目・品種の栽培にも挑戦します。

栽培した切花は、毎週水曜日の実習販売や毎年12月に行われる農大祭で販売しています。切花をどのような商品に加工したら人気が出るかを考え、実践するのも実習のテーマの一つです。また、入学式や卒業式の壇上の会場装花では、日ごろの実習の成果を存分に発揮して学生が作成し、式を華やかに彩っています。

農大祭で販売した花たち



キク班



需要期（物日）にあわせた電照栽培を基本とし、露地で小ギクも栽培しています。県育成品種の試作も行っています。品種の数はさらに増え、今年度は23品種のキク・小ギクを栽培しています。

【栽培品種】
輪ギク、スプレーギク、小ギク



バラ班



ロックウール培地を用いた養液栽培を行っており、アーチング方式や改良切り上げ方式で管理しています。改植の時にはカタログを見ながら自分たちで品種を選びます。今年度は、薄ピンク色のスプレーバラ「ファンシーローラ」を導入しました。

【栽培品種】
スプレーバラ、スタンダードバラ



洋花班



洋花班では一年を通して様々な品目の花を育てます。それぞれの品目に適した栽培管理をしなければならないので大変ですが、そのぶん多くの知識や経験が身につきます。今年、3年ぶりにガーベラの栽培を再開しました。

【栽培品目】

ヒマワリ、ストック、カーネーション、ケイトウ、ガーベラ、ペニバナ、スターチス、ハボタン、アスターなど



収穫・調整



毎日の実習は、栽培した花の収穫から始まります。月・木・金曜日には、市場出荷のため、収穫した花を切り揃えて束にしています。水曜日には、実習販売用の花束を作り、運搬車に乗せて運びます。



花き市場を見学



飾花製作



種まき培土の準備



キク挿し穂の調整



露地ほ場を耕うん



農産加工演習（調理実習）



特集

2024新入生 農大に入学して思うこと(前編)

2024年度に入学した新入生から、各専攻一人ずつ、「農業大学校に入学したきっかけ」や「卒業後の進路」などを聞いてみました。7月号と8月号に分けて紹介します。

《新入生》

若林怜輝	【鉢物・緑花木専攻】	…県外普通高校出身
柘植大和	【切花専攻】	…県内農業高校出身
川田恭平	【作物専攻】	…県内普通高校出身
良知秀哉	【果樹専攻】	…県内普通高校出身
小寺 輝	【露地野菜専攻】	…県内農業高校出身
竹谷吏乃	【施設野菜専攻】	…県内農業高校出身
間瀬 翔	【酪農専攻】	…県内農業高校出身
原田颯希	【養豚・養鶏専攻】	…県内農業高校出身

Q 農業大学校に入学しようと思ったきっかけは？

●若林怜輝【鉢物・緑花木専攻】

私はラン科の植物が好きで、将来はランを生産する農家になりたいと思い、ランの生産を実践的に学べる学校をさがしたところ、こちらの農大があったので入学しました。

●柘植大和【切花専攻】

自分は、将来、兼業農家としてJAで働きながら花を生産・出荷したいと思い、入学しました。また、たくさんの資格を取れると聞き、愛知農大を選びました。

●川田恭平【作物専攻】

高校の時、農業に興味を持ち、農業関係の仕事に就きたいと思いました。普通科の高校から農業関連企業に就職するよりも農大で経験を積んでから就職したほうがいいと思い入学しました。

●良知秀哉【果樹専攻】

もともと農業に興味があり、自分の適性に合っていると思い挑戦したくて入学しました。

●竹谷吏乃【施設野菜専攻】

農業高校出身のため、高校での実習や座学を通して、農業の楽しさを知り、農業（野菜）についてもっと詳しく学びたいと思ったからです。

●小寺 輝【露地野菜専攻】

人の役に立つ職に就きたい、人を選ばずに喜んでもらえる事がしたいと考えていました。そこで、農業なら誰にでも喜んでもらえ、人のためになると思い農業大学校を選びました。

●間瀬 翔【酪農専攻】

高校生の時から酪農を学んでいて、もっと牛について知りたいと思ったからです。

●原田颯希【養豚・養鶏専攻】

養鶏に興味があり、講義や実習を通じて、知識や実践的技術を身に付けたかったのと、生徒主体の教育方針であることを知り、確実に経験を積めると思ったからです。

Q 寮の生活はどうか？

●若林怜輝【鉢物・緑花木専攻】

友達と部屋でおしゃべりやゲームをしたりすると楽しいですし、テストのときに無くしたプリントを見せてもらったり教えあいながら勉強することができるので助かっています。



●柘植大和【切花専攻】

実習のあとは毎日いろいろな部活動に参加し、とても楽しく過ごしています。寮のお風呂は夕方ずっと開いており、入りたい時間に入れるので便利です。



●川田恭平【作物専攻】

家での生活と違い、友達と長い時間生活するので仲がとても深まります。学年や専攻の違う人とも話す機会があるので、コミュニケーション能力が身につくと思います。食事とてもおいしく、毎日の楽しみになっています。



●良知秀哉【果樹専攻】

寮生活をする中で、洗濯など家では親がやってくれることを自分でやるようになり、その大変さを実感すると共に親に感謝しなければと思いました。



●竹谷吏乃【施設野菜専攻】

建物が綺麗で一人部屋のため、とても快適に過ごせています。友達とずっと一緒にいるため、毎日が楽しいです。



●小寺 輝【露地野菜専攻】

しっかりプライベートを楽しめます。皆とワイワイすることもあり、一緒にご飯を食べたり、お風呂に入る程に仲の良い友達ができやすく、自然と周り協力し合っていける関係性ができるため、とても充実しています。



また、ちゃんと一人の時間も個室で取れるのがうれしいです。

●原田颯希【養豚・養鶏専攻】

1日中友人と過ごせるので、寂しくありません。自分で洗濯や掃除をすることに4月は戸惑いましたが、段々と慣れてきて、卒業後の1人暮らしに自信がつかえました。



授業後はアルバイトをしたり、友人と遊んでいます。

●間瀬 翔【酪農専攻】

今までにない新しい生活がとても新鮮です。親のありがたみが良くわかりました。



学生クラブ紹介

卓球部

部員数 6名
（男子3名、女子3名）
活動日時 火曜日 18:00～
活動場所 体育館



こんにちは卓球部です。私たちは練習メニューを設定せず、好みに合わせて自由に楽しく練習をしています。自由な雰囲気ですが、5月に開催された東海近畿スポーツ大会では、団体準優勝、女子シングルス準優勝、女子ダブルス3位という成績も取っています。初心者の方でもラケットを貸し出している所以誰でも卓球を始められます。みんなで一緒に卓球を楽しみましょう！

軽音楽部



部員数 16名
活動日時 月曜日から金曜日まで
16:10～ 21:30
活動場所 教室棟2階大教室の向かい側

軽音学部はギター、ベース、ドラム、キーボードやボーカルなどを練習してバンド活動をしている部活です。最近は管楽器奏者も加わり、個人練習もできるので、それぞれの予定に合わせて自由に活動しています。農大祭や卒業式ではライブを行っていて、ライブが近づくと練習にも力が入ってきます。機材も一通り揃っていて、仲間から教わることもできるので初心者でも始めやすいですよ。

研修紹介

新規就農希望者向け3研修

農業大学校では、新規就農希望者向けの長期研修として、「ニューファーマーズ研修」、「農業者育成支援研修」、「農業技術研修」の3研修を実施しています。

いずれの研修も履修・訓練時間の8割以上を受講すること、修了時には就農経営計画書を提出、一部研修では発表することが修了要件となっています。そして、これら研修修了者の多くが県内各地で就農し、活躍しています。

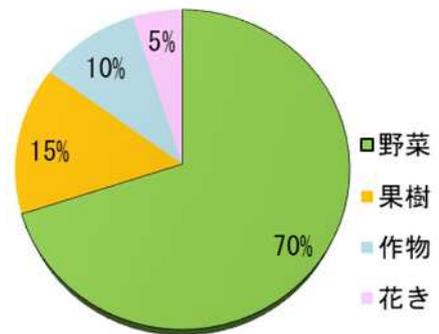
○ニューファーマーズ研修

ニューファーマーズ研修は、愛知県内で農業経営を目指す方を対象としており、今年度は4月18日に研修をスタートしました。令和7年2月27日まで約10か月間実施します。

先進農家のほ場等で実習を行い、栽培技術を修得するとともに、農業大学校で農業経営に必要な基礎知識の講義を受けます。講義や実習に加え、就農経営計画を立て発表することで、自らが目指す農業経営の展望を具体化させます。

本研修は産地の各JAと連携し、担い手の育成、確保に繋げています。今年度は、JA あいち三河のいちご塾、JA 西三河のイチゴスクール、JA あいち中央のいちじくスクール、JA あいち豊田みよし施設園芸支援センターの受講生が参加しています。

昨年度から、一部の講義でオンライン受講を実施していましたが、今年度さらに拡充し、実習で忙しい研修生には、利便性の向上と受講機会の確保につながっています。講義のオンライン受講は、5月23日から7月8日までに11回実施し、講義を受講した研修生のうち、オンライン受講した割合は、平均27.8%でした。



研修生のコース別割合

○農業者育成支援研修

農業者育成支援研修は、主に農業以外の分野から新規就農を希望する方を対象に、就農に必要な栽培に関する基礎的な技術や知識を修得していただくことを目的に実施しています。今年度は、5月24日からスタートし、来年1月17日までの約8か月間の実施を予定しています。

受講生は11名で、農業経験のある方ない方、農地のある方ない方、早期退職して参加された方、他の仕事を続けながら受講される方など多様なメンバーがそろいました。

研修内容は、露地野菜を慣行栽培で、週3日間（8月までは4日間）行います。講義も、実践的な内容（実験含）で18回実施します。

実習は2種類実施し、午前中は研修生全員で、同一の作業をする共同実習を行います。午後は、区割りされた面積で、研修生各自が栽培したい野菜を育てる個別実習を行います。

また、校外見学（先進地）を3回、委託実習（本研修を終了された農家）を2日間行っています。



講義



畝立て実習

○農業技術研修

農業技術研修は、離職者を対象とした公共職業訓練に位置づけられた研修で、岡崎高等技術専門校の「愛知県雇用セーフティネット対策訓練農業技術研修科」として本校で実施しています。この研修では、農業法人等への就職や新たに農業を始めるために必要な農業の基礎的な知識・技術の修得を目的としています。

今年度は、5月8日に開講式を行い、来年1月29日までの9か月間、26名が露地野菜を中心とした栽培実習や講義に取り組みます。

研修カリキュラムは、月曜日から金曜日まで週5日すき間なく生まれ、うち木曜日は「講義」、ほか4日間は「実習」を行います。実習では、ナス、トマト、キュウリ、ピーマンなど夏野菜、ハクサイ、キャベツ、ニンジン、ダイコンなど秋冬野菜と小菊の栽培にも取り組みます。水曜日には本校学生の実習販売日に合わせて、収穫物の「直売」も体験します。

また、講義や実習以外にも「校外学習」として、各品目の先進農家や本研修の修了生で自営就農を果たした先輩農家を訪ねてお話しを伺ったり、農産物直売所の視察などを行っています。



スイカのつる誘引作業



校外学習 ナシ農家視察

専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

○専攻別学生数

(注)カッコ内は女子の内数

区分	鉢物・緑花木	切花	作物	果樹	露地野菜	施設野菜	酪農	養豚・養鶏	計
1年	6(0)	8(2)	6(1)	13(3)	13(4)	15(2)	11(5)	6(6)	78(23)
2年	7(2)	5(1)	9(2)	15(5)	14(7)	15(3)	15(6)	10(3)	90(29)
計	13(2)	13(3)	15(3)	28(8)	27(11)	30(5)	26(11)	16(9)	168(52)



シンビジウム、猛暑を避けて山へ

鉢物・緑花木専攻で栽培しているシンビジウムは、12月などの冬場に出荷される洋ランで、花芽の生育する7月以降の暑さに弱いという欠点があります。そこで、夏は設楽町などの高冷地にシンビジウムを山あげすることが一般的で、私たちも6月末に山あげ地に持っていきました。当日は梅雨の晴れ間で、山でも暑かったですが、夜間は平地より涼しいはず。今年は順調に株が生育しているため、12月の農大祭や市場に向けてたくさんの鉢を出荷できると期待しています！



猛暑を克服できるかな？

今回は、学生が実施しているプロジェクト課題を御紹介します。
写真は、露地小ギクの圃場の現在の様子です。農大の夏は暑すぎて、小ギクの花（特に赤色）がうまく発色しないことが多いです。そこで、銀色の遮光ネットを張って直射日光が当たりにくいようにしたり、朝夕2回打ち水を行い小ギク周辺の気温を下げたりして、猛暑の影響を少なくできないか？というテーマで試験を行っています。

今のところ、温度計の数字にも小ギクの生育にも目立った差異は見られませんが、夏本番を迎えたときにどうなるかが楽しみです。





夏野菜の出荷が最盛期に

露地野菜専攻はキャベツ、ブロッコリー等の冬野菜が主な生産作物になりますが、夏もしっかりスイートコーン、スイカ、キュウリ、ナス、ミニトマト、ゴーヤ、ズッキーニ等の夏野菜を生産しています。

学生の皆は暑さにも負けずミニトマトの棚作りや防鳥のテグス張り、長雨による病気の防除、次々と生えてくる雑草の防除に取り組みました。その努力の結果、立派な野菜を収穫することができました。



アールスメロンの収穫間近！

施設野菜専攻では昨年の9月頃からトマト、ナス、キュウリなどを栽培しておりましたが、7月で終了となりました。これで2年生のプロジェクト研究がほとんど終わり、残すはアールスメロンとスイカのみとなりました。特にアールスメロンは昨年度、うまくネットが発生しないものや、糖度が上がらないといった問題点がありましたが、今作は水管理や脇芽取りなど、学生が管理を徹底したことで、綺麗にネットが発生しているメロンが多くなりました。最後の仕上げの管理も徹底して甘くておいしいメロンを完成させたいです！



校外学習で味噌づくりと米の6次産業化を学ぶ

2年生が校外学習として、のだみそ株式会社と岡崎市の大規模農業法人を訪問しました。桶を活用した味噌造りについて、どういった点を工夫しているかを学ぶことができました。また、大規模農家では米を利用した6次産業化として塩麴や米粉など幅広い商品があることを学んでいました。わからないことや疑問点について質問をして、積極的に学んでいました。





丹精込めて作った果物を和菓子に



果樹専攻では現在、農大近隣の和菓子屋さんと協力して新商品の開発を行っています。

まずは、学生が班ごとに育てている品目のアピールを行い、それに合わせた和菓子やスイーツにしてもらって試食して改良するという形で行っています。今は桃のかき氷を作っているところですが、学生もこだわりが強く意外と細かい意見を言ったり、店主さんもそれに応えるように作っていただいたりしているため、今年中の完成は難しそうです。



スモール市場の見学に行きました。

酪農専攻で飼養した黒毛和牛（去勢、5カ月齢）のスモール市場への出荷に合わせて、畜産課程の2年生があいち家畜市場（豊橋市）に見学に行きました。162日齢で体重171kgとまずまずの発育でしたが、血統が古いこともあり、平均価格を下回りました。

市場では、様々な農家が育てた牛とその取引を見学することができ、今後の飼養管理の参考となりました。また、学生がお世話になった農家や関係者も多数来場しており、色々と話を伺うこともできました。より良い牛を出荷できるように取り組んでいきたいと思えます。



東三河直肉流通センターへ見学に行ってきました

畜産課程の2年生が東三河食肉流通センターへ見学に行ってきました。初めに食肉流通センターの概要について説明を受け、牛では65頭/日、豚では1200頭/日のと畜解体能力と聞き、その規模の大きさに驚きました。また、枝肉の加工や副産物の処理、枝肉各付けなどと畜に付随する様々な業務について学ぶことができ大変有意義でした。

概要説明後は、豚のと畜処理について、係留場所からと畜行程、枝肉・内蔵検査、枝肉保管の冷蔵庫まで、全ての行程を間近で見ることができました。自分たちが育てた家畜が食肉となり各家庭に届けられるのだと思うととても感慨深いものがありました。



※ 各専攻の様子は、農大のInstagram、X(旧ツイッター)で情報発信しています。

トピックス

終業式 夏休みへ～

7月19日（金）終業式が行われました。

恒川校長からは、夏休みの過ごし方について、学生の時にしかできない学びや体験を通してより充実した夏休みにしてほしいとの話がありました。しかし、充実する日々を送るためには健康管理が大切になり、新型コロナなどの感染症に注意し、交通事故などにも注意して生活するよう講話がありました。

専攻の当番実習、資格取得講座など、引き続き学校で勉学等に励む学生もいますが、多くの学生は帰宅となります。9月2日の始業式には、また元気な姿で会えることを楽しみに待っています。



農学科後援会専攻見学・懇話会を開催

7月17日（水）に後援会主催で専攻見学及び懇話会が開催されました。

当日は、学校からの近況報告や、普段、見ることができない校内での学生の様子を見学し、懇話会では教職員も含め後援会会員同士の親睦を深めました。

また、この日は学生による実習販売も行われ、手際よく対応しており、活気にあふれていました。



専攻見学【酪農専攻】



学校からの近況報告



専攻見学【露地野菜】

第1回進路セミナーを開催しました

6月28日(金)、1年生全員を対象に第1回進路セミナーを開催しました。

今回は、就職活動の心構え、職業選択のための準備、正社員と非正規労働者、就職活動の流れなどについての講義としました。講義後には「実際の先輩の事例を聞きたい」や「思っているより早く就職活動が始まる」との声が聞かれました。

進路セミナーは、1年生を対象に、来年2月までに計5回開催する予定です。

イチゴの生産安定を学ぶ

6月21日(金)、愛知県いちご生産組合連合会と共催で、農業大学校において「イチゴの生産安定」をテーマに生産高度化研修を開催し、イチゴ農家及び関係者133名の参加がありました。この研修会では、7名の講師からイチゴ新品種「愛経4号」の栽培指針や、「愛きらり」ブランド化の取組、環境制御・栽培管理技術、さらに、イチゴ栽培で問題となっている灰色かび病菌の薬剤耐性状況の講義や各種情報提供をいただきました。



講演後の総合質疑においては、新品種「愛経4号」やブランド化に関する質問が出され、活発な討議が行われました。終了後のアンケートでは、特に灰色かび病菌の薬剤耐性状況について分かりやすく解説していただいていたと多くの意見が出され、研修内容について高い評価をいただきました。

生産高度化研修(ブドウ)を開催しました

7月5日(金)、愛知県果樹振興会と共催で、大府市役所において「ブドウ新系統の育成状況と販売戦略」をテーマに生産高度化研修を開催し、ブドウ農家及び関係者155名の参加がありました。この研修会では、経営コンサルタント オフィス b-MAPの中小企業診断士 久田博司氏に「マーケティング戦略における効果的な分析手法と価格決定のあり方」を講演いただきました。



また、「ブドウ新系統の育成状況について」の講演もあり、講演後の総合質疑においては、本県オリジナル品種の育成とそのマーケティング戦略に関する意見が出され、新系統に対する期待が大きいことがうかがえました。終了後のアンケートでは、「新系統について分かりやすく解説していただいたよかった」、「マーケティング戦略の重要性がわかった」などの意見が多く出され、研修内容について高い評価をいただきました。

お知らせ

オープンキャンパス

以下のとおり開催します。本校学生との交流の他、学生寮の食事も体験できますので、農大への入学に関心がある方はぜひ御参加ください！

第4回 8月6日(火)

第5回 8月27日(火)

※ 各回とも午前9時40分～正午

※ 事前に参加申し込みが必要です。

※ 食事体験(正午から)は希望者のみで、有料となります。

(内容) ①農業大学の概要説明、②キャンパスツアー(各専攻施設等の見学)、

③在校生との交流、④受験相談等(希望者のみ)、⑤食事体験(希望者のみ)

・詳細は本校ホームページを御覧ください。



お知らせ

令和7年度入学者選抜試験

●特別推薦入学試験

出願期間 9月10日(火)～9月13日(金)

試験日 9月30日(月)

合格発表 10月8日(火)

試験科目 面接試験

募集人員：20名程度

●一般推薦入学試験

出願期間 9月30日(月)～10月16日(水)

試験日 11月1日(金)

合格発表 11月13日(水)

試験科目 小論文(800字以内)、面接試験

募集人員：定員100名のうち2/3程度

●一般入学一次試験

出願期間 11月12日(火)～11月27日(水)

試験日 12月10日(火)

合格発表 12月19日(木)

試験科目 数学I、小論文(800字以内)、面接試験

募集人員 定員100名の内、推薦入学合格者を除く数



・詳細は、本校ホームページを御覧ください